

令和 8 年 5 月 28 日

新見市長 石 田 實 様

新見市地域審議会
会長 横山 孝史



提 言 書

テーマ 中高生が将来住みたいと思えるまちの魅力発信
～ 将来子ども達が地域に帰ってくるために ～

1 はじめに

私たち第9期新見市地域審議会では、令和7年度から新たにスタートした第3次新見市総合計画後期行動計画の策定に際し、地域に住む市民の目線から意見をさせていただき、意見の一部を計画に反映していただきました。この計画は、新見市の市政運営の基礎となるとても重要な計画です。計画に位置付けられた各種施策を着実に実施していただき、将来に向けてより良い新見市となることを期待しております。

また、今までに提出した提言につきましても、市内高等学校での進路勉強会として市内企業を紹介する場をつくるなど、具体化していただき感謝申し上げます。

さて、令和7年度は、新見市の特色ある行政施策について提言するため、審議テーマを「中高生が将来住みたいと思えるまちの魅力発信」に決定し、話し合いを進めてきました。

現在の我が国の人口動態は、地方の人口減少と東京一極集中という深刻な二極化に直面しています。特に地方部では、大学進学を機に多くの若い世代が都市部へと流出していますが、これは広い世界で学びを深めるといふ、尊重されるべき前向きな選択の結果でもあります。

しかし、真に直視すべきは、進学で外に出た若者たちが、その後の人生の選択肢として地元に戻るといふ道を選べていない現状です。都市部での生活が定着していく中で、地元に戻るという選択肢が消失していることが大きな要因ではないでしょうか。

若者たちに「地元に戻る」といふ選択肢を持ってもらうためには、働く場所や住む場所等も重要な一方で、多感な時期にこの地域でどれだけ「ワクワクするような体験」ができたかという記憶が必要だと考えました。私たちの地域の方々に話を聞くと、地域との関わりが愛着や定住に繋がっています。地域を盛り上げようとする大人達に触れながら、共に心を動かした原体験こそが、遠く離れた場所でも色褪せない郷土への信頼を育みます。

「またあの場所に帰りたい」といふ思いこそが、再びこの地を選ぶための最大の原動力となります。私たちは、一度離れた若者が人生のあらゆるステージにおいて立ち返りたくなるような、可能性に満ちた選択肢となるよう努力しなければなりません。

2 審議内容

本審議会では、審議テーマを「中高生が将来住みたいと思えるまちの魅力発信」とし、審議委員の意見だけでなく、将来は地元に戻りたいという希望を持つ新見公立大学の学生とも意見交換を行うなど、多くの審議を重ねました。

今回のテーマの本質は、現在本市で生活している子ども達が大学進学等を契機として転出した後、進学、就職、結婚等の将来のライフステージにおいて、本市に戻ってきたくなる動機が重要であり、それを認知してもらうことが魅力の発信であるという結論に至りました。

本市では、学校教育において、ふるさとキャリア教育には重点的に取り組まれており、本市の自然環境の素晴らしさや、特色ある文化・食・産業は子ども達に十分認識されています。

その中で、あと一步、子ども達の動機として必要なものが、自分達自身が地域の一員として主体的に参画する体験や思い出です。地域の大人達とともに、地域のために盛り上がる楽しかった体験を持っていただくために、次のとおり提言します。

3 提言

(1) 地域の取組に子ども達が参加しやすくなる仕組みづくり

- ・子ども達を参画させたい地域と参画したい子ども達をマッチングする仕組みの導入。
- ・イベント等のボランティア募集等を一元的に掲載できるプラットフォームの導入。

(2) 子ども達と一緒に取り組める環境整備

- ・子ども達とともに地域の取組を行う場合に補助金を交付するなど、子ども達と一緒に取り組むメリットの創出。

(3) 地域に子ども達の居場所づくり

- ・新見駅前等の空き店舗等を活用し、まずは高校生等が利用できる屋内滞在空間の実証実験の実施。
- ・使われ方、年齢層、必要な設備等を実証結果から分析し、必要な取組を継続。

4 おわりに

地方には地方としての魅力があり、独自の魅力を磨くことで、若者を引き付ける地域も生まれています。

その中で、地元に戻りたくくなるような誇りや愛着が持てる地域をつくっていくことが、これからの本市に必要な要素だと考えています。

本審議会としては、今回の提言を可能な限り取り入れ、各種施策に反映していただくようお願い申し上げます。